

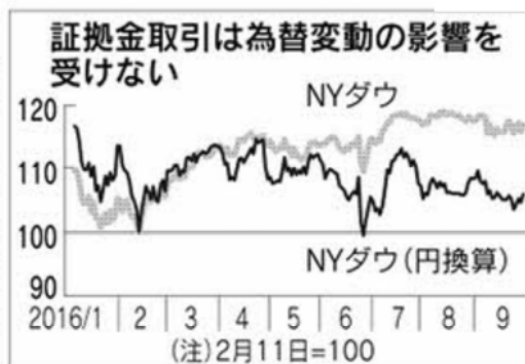
東京金融取引所の株価指数証拠金取引は、米国やドイツ、英国の代表的な株価指数も上場しています。海外の株価指数はこれまでも、主に投資信託などを通じて投資できましたが、証拠金取引の登場によってより機動的な売買が可能になりました。

金融取では海外指数も「円」で取引ができます。金融取に上場する株価指数証拠金取引の海外指数の取引単位はすべて「指数の値×100円」という円建ての売買となっています。為替レートの変動によるリスクを気にすることなく、指数値の変動だけを注意しておけばいいのです。

このような仕組みが可能になったのは、初回で紹介した「マーケットメーカー方式」を採用しているからです。この方式では投資家の反対側に複数のマーケットメーカーがお

株価指数証拠金取引のイロハ ③

NYダウなど海外指数も上場



り、売り買いの値段を提示しています。その際に円建てで価格を提示するため、いわばマーケットメーカーが為替リスクを負っているわけです。史上最高値圏にある米国のダウ工業株30種平均（NYダウ）の実際の値動きを例に、為替変動の影響を具体的に説明しておきましょう。

NYダウは今年の2月11日に付けた今年の最安値（1万5660^{ドル}）から、8月15日

には1万8636^{ドル}まで約19%上昇しました。ところが、この間の円相場も1^{ドル}112円台から101円台まで約11%もの円高・ドル安になりました。このため、NYダウのこの間の上昇率は円換算では7%台にとどまっています。NYダウの株価指数証拠金取引なら指数の変動だけが損益になりますから、この例では19%上昇した分がそのまま利益になります。

海外へ直接投資する場合はこれまで、海外業者に口座を開ける必要があるなど手続きに手間がかかるのが実情でした。株価証拠金取引を利用すれば国内のひとつの口座で容易に海外の株価指数が取引でき、個人投資家にも手軽に海外分散投資ができる道が開かれたのです。

（金融ストラテジスト

岡崎良介）